

1. 活動報告（事務局 記）

8月24日（土）ビオトープの隣のたんぼに蕎麦を植えました。たんぼゾーンとため池ゾーンの観察道の草刈りをしました。
8月31日（土）田の小野の林さんの御手配でドジョウ約100匹、タイコウチ10匹を採ってビオトープに放流しました。
9月7日（土）昨日善和園の方に刈っていただいた草を整理しました。又水車の異音が発生した軸受けの移動修正をしました。草刈後異議があるかも知れませんが現在公園のようにきれいになっています。蕎麦は順調に生育しています。
9月11日（水）衆議院文部科学委員会（河村建夫委員長他16名）の視察があり、今井会長・原田副会長が対応されました。二俣瀬小学校にてビオトープの概要の発表後、現地へ移動し、それぞれのゾーンごとの様子について説明しました。
9月21日（土）遊歩道の調査をして、草刈りの必要な範囲を決めました。蕎麦の管理上、水田と蕎麦田を繋ぐ丸木橋を設置しますので、丸木橋の製作準備のため 林 武司会員の提供による丸太用の桧を伐採しました。水田の周囲草刈等を行いました。作業の後一部会員により、ビオトープ周辺の里山を歩いて、秋の七草探しをしました。

2. 今後の予定（事務局 記）

10月5日 水田の水落とし れんげの種まき
10月8日 山口県県民活動促進計画に関する意見交換会に今井会長、藤井さん参加予定
10月12日 宇部市地球温暖化対策ネットワーク設立総会に今井会長、原副会長参加予定
10月10日 ロータリクラブにて“里山ビオトープ二俣瀬”の講演（講師 西原一誠会員）
10月19日 稲刈り
10月27日 一園会（宇部地区一級造園施工管理士の会）にて“里山ビオトープ二俣瀬”の講演（講師 西原一誠会員）
10月 末 蕎麦刈りがよていされています。

3. ビオトープ関連（ビオトープで観察される動植物）（車地 原田満州夫 記）

9月15日（日）朝ビオトープ散策 池から湿地帯の給水口に50cm丸の水溜りがポツリ！その中にメダカ、沼えび（田えび）がウジャウジャもう少しで窒息死しそうなので網を取りに帰って救い上げ池に放流した。この50cmの丸の中にメダカ30匹程度、沼えび50匹程度を回収。今年の気候か、または湿地帯の条件が良かったかすごい繁殖である。
長い旱魃のため湿地帯も水が少なく須賀河内川側水路にはメダカの日干しもちらほら、この50cm水溜りも池より手にて水を落とし1m丸の水溜りを作って一安心。夕方犬の散歩でそこを確認しおったまげ、水たまりが干からび中には無数の田えびの死骸がカップエビセン状態であった。おそらく朝方には50cm水溜り周辺にいた沼えびが水を池より入れたことにより水溜りに帰着できたが更にこの水溜りが干からびたことで死んだものと思う。もう少し待って水溜りが小さくなった時点でさらに救い上げればよかったなあつくづく残念に思う。

4. ビオトープ関連（連載ビオトープ近辺の案内）

“珍説フタマタセ その二、流れ”（車地 吉富 壮介 記）

「二俣瀬」は、木田橋の下（しも）から始まっていた。時期にもよるが、車地側へ二分、木田側へ八分流れていた。車地側は川遊びに適し、テンツキもった子供達が、エビやハヤなどを追っかけていた。釣り、特に夜釣りを楽しむには、水量がたりなかった。その点木田側は水が多く、一年中釣りが楽しめた。が、一旦大雨になり、水かさが増すと様相は一変する。直線的で川幅の広い車地側が主流になり、音もたてず、真一文字に流れて行く。木田側は巾も狭く、二度三度岸へぶつかり、散々もみくちの末、三分ばかりおくれて合流していく。もみくちになる割に、川岸が痛まなかったのは、竹やぶだけじゃなかった。木田側、特にキンマの前には、巨大な石を積みあげた石垣があった。大阪城の石ほどじゃないし、熊本城ほどリッパな石垣じゃないが、その昔人力だけで…。文なす巨石がガッチリ積んであった。角のとれた、黒ばかりしていた石、転げて来た石を、何年もかけて、拾いあげては積み、拾っては積み…。何千、何万回もの洪水に堪えた技術は、後世に称えるべきであったろう。他の所の石垣は流されては積み、崩されては積んでいたから、石垣の色は年ごとに変わっていた。河川敷のわん曲部（壁画のある辺り）には岩のむき出た絶壁があり、流れを直角にとめていた。岩壁の下は淵、青く澄み、底は深くて見えない。岩の上から飛びこむツラハリもおったが、普通の子は「エンコがある」と怖れ、近づかなかった。ここで島も終り、流れは島の尻を撫ぜるように車地側へ曲り、合流していた。その合流点が「シヨンガ瀬」。どんな字を書くか、どんな意味かは知らないが、厚東川最大の難所（キケンな瀬）とされていた。二つの瀬が激しくぶつかり。二重三重に渦が巻き、白波を立てて駆け下だる。「水の上と底の方では流れが逆だ」と、並みのツラハリも近づかない。瀬の底には流れて来た竹の根や、巨木が沈み、枝をぶきみに伸ばしていた。瀬に乗って泳げば埋れ木に当たり、舟で下だれば腹を突き上げて、舟の向きを変えたりした。木田に一人、ドウカン坊主がおった。潜って瀬に入り、ひっかかっているスジや釣針を外して来て、一年中タダで魚釣りを楽しんでいた。そのドウカン、今チュウブで寝ているが、健全（まめ）でおればこれこそ「二俣瀬」の主（ぬし）といえる存在であろう。「シヨンガ瀬」別名を「庄ヶ瀬」とも「照願瀬」ともいうが、当て字、覚えちがいかもしい。「ふた瀬に流る厚東川、やがては結ぶひと筋に、忠孝のみちも欺くこそと…」当時の二俣瀬小学校の校歌である。いま歌う人もいない。「とき」の流れが…

キンマ 吉村酒店の屋号 創業者 吉村金蔵さんの名前による。
ツラハリ ドウカン わんぱく坊主の意

5 会員の声

題名 吉本 正 記

今回は間に合いませんので次回に掲載します。

6 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

8月17日(土) 夏休みの自由研究の写真を撮りに来ました。きれいなトンボがいっぱいいました。今度はゆっくり最後まで見たいです。 又来ます。 2年 紗那

8月18日(日) 青い空と白い雲朝のさわやかな風が目の前に広がります。大きな大きな蓮の花、白と白いピンクはすの花ってこんなに大きいんだ!

今日一日の始まり素敵な一日始まりを予定しています 潮村由紀子

8月21日(水) はじめてきました・・・が私達親子でだれもいません 寂しいようなのんびりくつろげる様な・・・

メダカ捕りのかっこうでお茶も持たずに軽装 次回は遊歩道を一周歩くつもりの準備でやってくる積りです。マイナスイオンをあびてリフレッシュしました。 小野田 Y・H

8月25日(日) これで三度目です。弁当を持ってきました。ハスはキレイデシタ。トイレは仮設でもいいからほしいよ。

宇部市岬町 金子尚太、はすの花が美しいです。尚太の母

日付不明 ぼくはここにきてすごいおもいをしました。とんぼもいっぱいおってメダカもいっぱい追ってすいしゃがくるくるまわってたのしかったです。 原小1年2組 ひらおかはやと

8月30日(金) すばらしい環境で魚がたくさんいますねタガメや水カマキリそして魚ではイトヨとが見たいです。 白竹

9月 8日(日) 前々から気になっていたの、家族で来て見ました。子供たちもとても喜んでくれてよかったとおもいます。

また春の頃には、来て見たいと思っています。 厚南 上山

9月11日(水) 初めてここに来ました。メダカ?ですかハスの実ステキですね。とても涼しくて、オチツイテイテ、イイト頃ですね 山口市 福田マコ、田中、鈴木

9月15日(日) メダカをいっぱい取りました。いっぱいさかながいて楽しかったです。また皆で来ます へたの?

7 会よりの連絡事項

(1) まだ連絡の不徹底があるようです。今回は全会員に封書で送ることになりました。全会員が参集できる条件作りは、事務局の責任としますので。

(2) やまぐち県民活動支援センターよりサポートメールが入ってきますEメール連絡網の方は転送しています。メールのない人も会員連絡を取り合って色々な催しものに参加したらいかがでしょうか。

8 編集後記

夏の暑い盛りに草刈りをしていると、ムツとするような夏草と土の匂いがする草の熱(くさいきれ:日が強く照っているとき、草原などに起こるムツとした熱気)は夏を適確に表現した言葉ですが、季節はもう秋になろうとしています。秋分の日頃は秋の七草が見られる時期となります。山上憶良(やまのうえのおくら)の短歌「萩が花、尾花(すすき) 葛花、なでしこの花をみなへしまた藤ばかま、あさがほ(ききょう)の花」に詠まれている秋の七草も、実際に野山に行っても、もう簡単には見つける事が難しくなってきました。この様な野山の草花もだんだんと減少していき、七草のうち環境省のレッドデータブックによれば、フジバカマは絶滅危惧 類(関東・関西を中心として)で、キキョウは同じく絶滅危惧 類(山口県を含む)となっています。里山ピオトープ二俣瀬とその周辺で、どこに行けば秋の七草と出会えるのか確かめておいて、ピオトープを訪れる人達と共に秋の七草を愛でる楽しみをもちたいと思います。ところで、枯れ草の熱=枯草熱(こそうねつ)と書けば、花粉症の別名となります。イギリスでは hay fever(枯草熱)と呼ばれ、イネ科の植物の花粉により発症するため、時期はまさに夏です。

(西原 一誠 記)